

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1411号 1998年02月09日(月)

〈 strong job market for U.S. 〉

金曜日に発表になった米1月の雇用統計は、こと雇用の面ではアジアの危機が米国経済に及ぼしている影響がまだなく、同国経済が依然として力強く拡大していることを示しました。前月、前々月と全く同じように、非農業部門の就業者数の伸びは事前予想(26万人強)を大幅に上回って35万8000人に達した。11月が42万9000人、12月が35万5000人増加のあとの大幅増加だけに、米経済の雇用面の強さは際だっている。昨年の秋頃までの平均月間就業者増加は25万前後だった。

1月の米雇用統計には、いくつかの興味深い点が見られる。これだけ雇用が増えたにもかかわらず失業率は4.7%で12月と変わらずだったが、その背景は新規労働力の労働市場への参入。職を求める人が増えたが故に就業者数が増えても、失業率は高まらなかった。労働力の増加は、11月が45万8000人、12月が30万5000人、1月が32万4000人。この結果、1月は全人口に対する就業者数の割合(employment to population ratio)は64.2%とアメリカ史上最高に達した。グリーンズパン連邦準備制度理事会議長が言うように新規に労働力に参入できる人口の余地は限られており、アメリカ経済の労働力プールはこのところの労働人口の急増により、急速に枯渇しつつあると見られる。

また、1月の雇用統計の特徴は白人以外の人種グループの失業率が急速に低下したこと。ヒスパニックの失業率は7.5%から6.9%に大幅低下した。黒人の失業率も9.9%から9.3%に低下した。これに対して、白人の失業率は3.9%から4.0%に上昇している。雇用の裾野が広がっていることがうかがわれる。アメリカ経済は、働く気のある人間に職場を提供できているということになる。

こうした雇用関連統計だけ見ると、アメリカ経済の雇用面からのインフレ圧力は高まっているように見える。民間部門の時間当たり平均賃金も、前月の12.47ドルから12.51ドルに上昇した。ただし、1月の非農業部門就業者数が大幅に伸びたのには特殊要因もある。一つは、1月はアメリカの大部分の地域で天候が非常に良好で、住宅建設市場が極めて活況なことからこの部門で大幅に雇用が伸びた(9万2000人)こと。

しかしこの強い雇用統計以上に注目すべきは、この強い統計にも関わらずアメリカの債券、株式市場が結局はこの強い統計を懸念せず、最終的には上値追いをしたこと。債券相

場は雇用統計が出た直後は売られましたが午後にかけて値を戻して、引けの利回りは 5.91%と木曜日引けの 5.93%からむしろ低下した。またこの債券相場の堅調な動きと、JP Morgan を巡る合併の噂で同社株が大幅に上げたこともあって、ニューヨークの株はダウ工業株 30 種平均株価で見て 72.24 ドル高の 8189.49 ドルと 8259.31 ドルの史上最高にあと 60 ドル強に迫った。もっとも、SP500 指数は過去数日と同様に 1012.45 ドルと史上最高を更新した。

これは先週金曜日の号で指摘したとおり、アメリカの置かれている物価状況が多少の雇用環境の逼迫では懸念しなくて良い環境にあることを示している。

〈 JP Morgan with Deutsche Bank ? 〉

週末には、企業の動向に関して大きなニュースがいくつもありました。これは確認されていませんが、金曜日のニューヨークの株式市場で駆けめぐったのは、JP MORGAN とドイツ銀行との合併の噂。この噂によって、JP MORGAN の株価は 4 ドル 3 / 8 も急上昇して、引値は 111 ドル 3 / 4 になった。ドイツ銀行の合併意欲は非常に強いもので、金曜日の東京市場ではスイスのある大手銀行との合併の噂が出ていましたが、ニューヨークではこのドイツの銀行の合併相手を巡る噂が JP Morgan になったというわけです。

世界の銀行業界では、スイス 3 大銀行のうちの 2 行による大型合併など合併ニュースに慣れているとは言え、このアメリカとドイツを象徴する二つの銀行の合体が本当だとすれば、世界の企業社会に「国境がなくなる」ということを象徴的に示しそうです。実際に「合併」(merger) が実現するかどうかはまだ不明ですが、こうした「噂」が出ること自体が企業環境の変化を指し示している。

ドイツでは、鉄鋼大手二社の間に合併の話が進んでいるようです。ティッセンとクルップ。この二社の合併の話は 80 年代からあったように思いますが、日本で言えば新日鐵と日本鋼管の合併のようなもので、ドイツ国内では大きなニュースになっている。

企業社会を取り巻く環境変化の速さを示しているのは、ネットスケープを巡るニュースです。同社は、今のインターネット社会の基礎を作ったとも言える閲覧ソフトウェア(ブラウザ)である「ネットスケープ・ナビゲーター」の創設会社。しかし、マイクロソフトの激しい攻勢を受けて業績が急激に悪化している。

先週末にウォール・ストリート・ジャーナルが報じたところによれば、同社はアメリカン・オンライン、サン・マイクロシステムズ、オラクル、それに IBM とネットスケープに対する strategic investments (戦略的投資 = 資本増強など) や、outright purchase (買収) に関して話し合いが継続中という。交渉には若干の時間がかかる見通し。「ネットスケープ」という名前が残るのかどうかも分かりません。今のインターネットの社会は「ネットスケープ」という名前と不可分で成長してきた。研究者の情報交換手段だったインターネットを我々のような人間が利用できるものにしたのは、モザイクからネットスケ

ープにつながったブラウザです。もし「ネットスケープ」の名前が消えたら very very sad という感じですが、これはまた現在の企業環境の変化が極めて激しいことを示している。

今週は先週と打って変わって大きな発表予定のない週です。12日に発表される米1月の小売売上高程度。為替市場の関心は、2月末に開かれるG7に向くでしょう。あとはオリンピック開催の間中は見送られる可能性が高いものの、その後には極めて高い可能性があるアメリカ軍によるイラク攻撃の影響です。90年のイラク空爆は原油価格を大きく動かすことによってドルを押し上げましたが、今回は

1. そもそも爆撃期間は短いと予想されること
2. イラクの原油輸出量は多くないこと
3. アジアの需要低迷で、原油価格は低迷していること

などから、原油相場に対する影響も少なく、従ってドル相場に対する影響も knee-jerk なものにとどまると予想される。G7は、日本の内需振興策とアジアの危機が最大の議題。

〈 have a nice week 〉

天気の良い週末でした。天気は今朝も良い。天気がよいのは良いのですが、どうも私が利用している中央線、それと平行している総武線の調子が悪い。今朝も市ヶ谷駅で人身事故があったとかで、もう中野駅で凄い人の波。動けないほど。電車も動かない。電車はかつて最も安心できる(時間が予測できる)乗り物でしたが、最近の中央線は「走っているかな」と思うほど。先週の火曜日に仙台に行く時も何かの事故で、中野と東京の間が普段の二倍もかかって、結局予定していた時間の新幹線に乗れなかった。どうにかして欲しいものです。まあ、理由はいろいろ言われていますが。

長野オリンピックの開会式中継を見ましたが、なかなか良い入場式だったと思います。日本の伝統がふんだんに盛り込まれていた。しかも、子供がうまく「式」に付き物の「堅さ」をほぐしていた。5大陸を宇宙中継で結んでの「歓喜の歌」も良かった。2時間という長さをあまり感じさせなかった。最初はちょっとテンポが遅い感じがしましたが、段々盛り上がってきた。

開会式に長野県諏訪市の「御柱」が出てきたのにはびっくりしましたね。事前に決まっていたんでしょうが、知らなかった。この「御柱」という祭りは、7年に一度の諏訪大社のお祭りです。諏訪大社には上社と下社があって、上社には前宮と本宮が、下社には春宮と秋宮があり、一つの宮に立つ御柱は4本ですから、全部で16本ですから、オリンピックではその半分が立ったことになる。今年はちょうどその「7年に一度の祭り」の年に当たります。

今週は11日が休みで、shortened week。ちょっと中途半端です。体調に気を付けていきましょう。

<http://www2.gol.com/users/ycaster/>